

積極的に英語でやり取りを行う生徒の育成 ーリテラチャー・サークルの実践を通してー

（実践者）向井 俊博

1 研究テーマ設定の理由

グローバル社会の進展に伴い、多様な文化や異なる歴史的背景を持つ人々と共存し課題をよりよく解決することができる資質や能力がこれからの生徒たちに求められている。社会や他者との関わりを大切にし、自分の気持ちや考えを積極的に表現し、伝える力を身に付けることは、生徒たちがこれからの社会を生きていく上で必要な力であると言える。生徒たちが、対話を行うときに、相手の立場や気持ちを考えながら、さまざまな語彙や表現方法などを駆使することで、よりよい人間関係を築くことにも繋がる。本研究の積極的に英語でやり取りをすることとは、積極的に相手を理解しようとしたり、自分の意見や考えを相手に分かりやすく伝えようとしたりすることである。生徒が積極的に英語でやり取りを行う場面設定の一つとして、リテラチャー・サークルが有効であると考え。リテラチャー・サークルとは、学習者が小グループになり本の内容について質疑応答したり議論したりする協働学習である。リテラチャー・サークルを行うことで、生徒はさまざまな見方や考え方を学んだり、教科書本文の内容を社会の出来事や自分の経験と結び付けて考えたりできるようになる。また、生徒にコミュニケーションの方法や人との関わり方を学ばせ、学びに向かう力を高めさせたい。このように、リテラチャー・サークルの実践を通して、積極的に英語でやり取りを行う生徒を育成したいために、本研究テーマを設定した。

2 研究の内容及び方法

(1) 深い学びを実現する単元構想

社会や他者とのつながりを意識した取組として、教科書の本文内容を利用し、各単元のまとめとして、リテラチャー・サークルを行った。生徒は、協同学習の中で級友の様々な考えを聞いたり、その内容に対する自分の考え、意見や体験を述べたりした。生徒は、学びの内容を生徒自身の身近な話題と関連づけたり様々な人の考えを聞いたりしたことで、他の生徒とやり取りを行いたいという気持ちを高めさせ、学んだ文法事項などを用いて自分の考えを述べるようにさせた。継続的に行うことで、毎回のリテラチャー・サークルで成長が見られるようにさせたい。

(2) コミュニケーション能力を高める学習指導

生徒に帯活動で英語での問答ゲームをペアで行わせたり、5W1Hを意識した英問英答を行わせたりした。また、リテラチャー・サークルでは、生徒に聞き手が理解しやすいように伝える項目を精選したり適切な順序に並べ替えたりさせて、論理的思考力を向上させた。また、やり取りを行う際は、相手の発話に関連した質問や意見を述べるようにさせた。

(3) 振り返り活動の充実

360度カメラやロイロノートを用いて、リテラチャー・サークルやパフォーマンステストの内容を録画し、振り返り活動を行うことで、生徒が現状を把握したり、成長を感じたりできるようにした。また、振り返りシートやループリックによる評価を用いることで、教師が生徒への指導・改善を行いやすい評価にし、また、生徒が次の活動への学びに向かう力が高まるようにした。

3 研究の実際

(1) 指導の計画

ア 生徒の実態

今回の研究対象クラス（3年生1クラス32名）で以下の内容でアンケートを行った。

【英語の授業で英語で「話すこと」は好きか。】							
とても好き	13名	好き	15名	あまり好きでない	4名	全く好きでない	0名
【英語の授業で英語を「話すこと」を難しいと感じるか。】							
とても思う	4名	思う	11名	あまり思わない	12名	全く思わない	5名

多くの生徒が話すことが好きな一方で、半数の生徒が難しいと感じながらもなんとか英語で伝えようと努力している実態が見られた。こうした生徒の実態を踏まえ、全ての生徒が英語でやり取りをすることに意欲的に取り組めるようにするため、既習事項を活用し、できるだけ身近に感じられる内容で会話ができるようにして、英語を使いたいという気持ちを持たせるようにした。また、全ての生徒が意見を出せるように、個々の考えをしっかりと持たせてからジグソー学習を取り入れ、見通しを持たせてリテラチャー・サークルに取り組むようにさせた。

イ 実践内容

中学3年生の七つの単元でリテラチャー・サークルを実践した。リテラチャー・サークルは、4人1組になり、「サマライザー、イラストレーター、クエスチョナー、コネクター」の順に自分が学んだことをお互いに伝えていく。一人が司会者となり、話がスムーズに進むよう調整していく。気になったことがあれば、その都度質疑応答したり、感想やコメントを言ったりするなどのやり取りを行った。話合いの時間は1回につき15分である。本校の中学3年生32名を対象に合計11回のリテラチャー・サークルを行った。本研究では、一つは、授業実践の中で、英語が得意な生徒（生徒A）、ある程度得意な生徒（生徒B）、苦手な生徒（生徒C）の生徒3人に焦点を当てて、360度カメラを用いて録画し、15分間にどれだけの語を発話するかのカウント及び発話内容の分析を行った。これらの生徒に焦点を当てることで、得意な生徒はどのようなやり取りを行っているのか、苦手な生徒はどのような点でやり取りを難しく感じているのかを探り、分析した。また、年度末にクラス全体にアンケートを行うことで継続的にリテラチャー・サークルを行うことが有効かどうか、また、積極的に英語を話すことに繋がっているかどうかを確認した。

(2) 指導の実際

ア 単元名

TOTAL ENGLISH 3 Reading 2 Fly Away Home

イ 単元目標

- 物語を読み、登場人物の行動や心情の変化、あらすじを理解したり、今後の展開を予想したりすることができる。 「知識及び技能」
- 物語を読み、内容について分かりやすい英語で表現し、考えたことや感じたことなどをグループで質問し合ったり応答し合ったりすることができる。 「思考力、判断力、表現力等」
- 級友の発表を聞いて、コメントを述べたり質疑応答をしたり、分からない語句があったとしても粘り強く英語を用いてやり取りをしようとする。 「学びに向かう力、人間性等」

ウ 重点目標

<本質的な問い>

物語を読み、その内容について、積極的に英語でやり取りを行うにはどうすればよいか。

<永続的な理解>

次の三つの視点が必要である。一つ目は、物語の全体の内容を理解することである。個々の単語や文の解釈に追われるだけでなく、物語全体の構造（起承転結）をつかみ、次の展開を想像し

ながら楽しく読むことが大切である。二つ目は、相手に伝えるために6W1Hを意識したり、コミュニケーションの型を活用したりして、自分の理解した内容を相手がイメージしやすいように伝えることである。三つ目は、積極的にやり取りを行うために、相手の発表内容に興味を持ち、アイコンタクト、うなずき、ジェスチャー、イントネーションなどのコミュニケーションスキルを活用してやり取りすることである。

エ 単元の評価

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①今までに学習した言語材料の特徴やきまりを理解している。 ②実際のコミュニケーションにおいて、物語を読んだ感想や感じたことについて、自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や文を用いて伝え合う技能を身に付けている。	①物語を読んだ他の者の考えを知り、自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要や要点を捉えている。 ②物語を読んだ、その内容や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や文を用いて伝え合っている。	①物語を読んだ他の者の考えを知り、自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要や要点を捉えようとしている。 ②外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてやり取りしようとしている。

オ 評価の方法

パフォーマンス課題	その他の評価方法
あなたは海外に留学中、英語で物語を読む授業を受けており、リテラチャー・サークルを行っています。今回の題材は“Fly Away Home”です。四人がそれぞれの役割を行った後、あるメンバーが“The geese arrived in time. I was surprised! Amy and her father did a great work!”と言いました。その続きを英語で話して、テーマが「挑戦」となるように、Amyたちのエピソードに触れながら、自分の考えを英語で伝え、会話を2分間継続させましょう。	○リテラチャー・サークルの 各役割のワークシート ○ループリック評価表 ○360度カメラで記録されている動画 ○自分の挑戦に関する考えを書いたワークシート

カ パフォーマンス課題のループリック

条件1：物語中の英文や相手が話した内容を引用するなどしている。 条件2：自分の考えたことや感じたことなどを理由とともに述べている。 条件3：相手に考えを求めたり、話題を広げたり深めたりしながら対話を継続している。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	誤りのない正しい英文で話すことができる。	自分の考えを詳しく述べたり、効果的に引用したりしながら、三つの条件を満たしてやり取りしている。	自分の考えを詳しく述べたり、効果的に引用したりしながら、三つの条件を満たしてやり取りしようとしている。
B	誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。	三つの条件を満たしてやり取りしている。	三つの条件を満たしてやり取りしようとしている。
C	誤りがあり、話したり聞いたりすることが難しい。	三つの条件を満たしてやり取りしていない。	三つの条件を満たしてやり取りしていない。

キ 指導計画（全8時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準（評価方法）
1	・新出単語や語句の確認を行い、物語を読むことを通して、野鳥のガンの習性を理解する。	知		・「刷り込み」や「渡り」など野鳥のガンの習性を理解している。（ワークシート）
2	・物語を読み、内容を正しく理解したり、展開を予想したりする。	知		・物語の概要を正しく理解したり、展開を予想したりしている。（ワークシート）

3	・登場人物の心情を理解し、それが表現されるように音読する。	思		・登場人物の気持ちを意識し、抑揚を付けながら、正しく英文を読もうとしている。(観察)
4	・リテラチャー・サークルを通して、Part A・B の内容理解を行う。	態	○	・物語の内容に沿って、自分の考えを英語で言おうとしている。(観察)
5	・リテラチャー・サークルを通して、Part C・D の内容理解を行う。	態	○	・物語の内容に沿って、自分の考えを英語で言おうとしている。(観察)
6 本時	・リテラチャー・サークルを通して、Part E の内容理解を行う。	態	○	・物語の内容に沿って、自分の考えを英語で言おうとしている。(観察)
7	・DVD を鑑賞することを通して、物語を理解する。	知		・今までの学習を振り返りながら、自分の解釈と映画の解釈とを比較しようとしている。(ワークシート)
8	・パフォーマンス課題に取り組み、内容を深く考え、自分の考えを英語で述べる。	知 思 態	○ ○ ○	・パフォーマンス評価 (支援)ここまでの授業内容を振り返り、マッピングを用いて自分の考えを整理し、活動への手がかりとする。

「重点」は、重点的に生徒の学習状況を見取る観点を示しており、観点の略称は以下のとおり。
 知識・技能…「知」 思考・判断・表現…「思」 主体的に学習に取り組む態度…「態」
 重点としていない観点についても、生徒の学習状況の評価し、教師の指導改善や生徒の学習改善に生かす。

(3) 授業の実際 (6 / 8)

ア 主題

物語を読んで、感じたことや学んだことを語り合おう。

イ ねらい

物語を読み、内容について分かったことを英語で表現し、感じたことや考えたことをグループで質問し合ったり応答し合ったりすることができる。

ウ 展開

学習活動 (形態)	時間	○教師の働きかけ ・ 生徒の反応	○指導の工夫 ◎評価規準 (評価方法)
1 英語で問答ゲーム (ペア)	4	○Which do you want to visit, the past or the future?のテーマで話そう。 ・ I want to visit the past. I want to go back to the first year of junior high school. I lost my final soccer game. I want to practice harder and become a better player.	○相手に分かりやすく伝えるために、結論を先に言ってから理由を述べたり、5W1Hを意識して質問したりして内容を深めさせた。
CAN-DO We can exchange our opinions in English. “What do you think of Amy and her father’s challenge?”			
2 復習 (一斉)	2	○本文内容を一度読み、内容を大まかに理解させた。	○今回の取組への意欲を高めるために、前単元での話合いの文字起こしをしたプリントを用いて、課題や良かった点を述べたり、話し合う際に有用な表現を確認したりさせた。
3 ミニレッスン (全体)	5	○前単元でのリテラチャー・サークルを振り返り、良かった点・改善したい点を確認させた。	○自信を持って話合いをするために、ジグソー
4 話合いのための準備 (グループ)	8	○同じ役割で集まり、自分の役割の内容を確認させた。	

5 話し合い (グループ)	15	○サマライザーが要約を説明した。 ○イラストレーターがイラストを説明した。 ○クエスショナーが質疑応答をした。 ○コネクターが自分の経験を話した。 ○まとめの話し合いを行い、感じたことを話し合った。	学習で、級友と話し合いながら準備させた。 ○結論を先に言ったり、6W1Hを意識して自分の考えを述べたりすることで、相手に分かりやすく伝えさせた。 ◎積極的に感想を述べたり質疑応答をしたりしていた。(発話棒・360度カメラ)
6 発表 (全体)	8	○全体で感想を共有させた。 ・ We think to challenge ourselves is important. Amy and her father worked hard to raise babies of goose. They never gave up. I also want to do my best without giving up. My dreams will come true.	◎話し合いの中で5W1Hを用いて質問したり、結論を先に言ってから理由を述べたりすることができた。(ワークシート・360度カメラ)
7 振り返り (グループ) →(個人)	8	○話し合いを通して学んだことや達成できたこと、課題や改善点について話し合えた。 ・ I could talk about my opinions a lot.	○多様な考えを持たせるために、他のグループの生徒の発表を聞かせた。

(4) 生徒の学びの実践

ア 振り返りシートの活用

リテラチャー・サークルを行うごとに振り返りを行った。学んだこと、感想や改善点などを記録し、自分の成長を振り返ることができた。「言いたかったが英語で言えなかったこと」を英語で書かせることで、生徒の語彙力の向上に繋がった。(資料1)

Literature Circles 振り返りシート							
3rd Grade CLASS()		No. ()		NAME()			
	日付	内容	役割	目標	達成できたこと	改善点・次回へ向けて	感想
第8回	1/21 (木)	Fly Away Home (Reading 2AB)	S	to talk a lot	to tell my opinion	友達が発言した。自分の考えをいかに伝えたいか、何を伝えたいかを事前に決めておく。	先生はみんなに話を聞かせる工夫をしてくれて、話し合いがスムーズにできた。
2班							
第9回	1/25 (月)	Fly Away Home (Reading 2CD)	Q DP	to continue talking.	自分の意見を言う機会がなかった。英語で言えなかったこと。	英語で言えなかったこと、言えなかったこと。英語で言えなかったこと。	英語で言えなかったこと、言えなかったこと。英語で言えなかったこと。
5班							
第10回	1/28 (木)	Fly Away Home (Reading 2E)	S	to talk about myself.	自分の意見を言う機会がなかった。英語で言えなかったこと。	英語で言えなかったこと、言えなかったこと。英語で言えなかったこと。	英語で言えなかったこと、言えなかったこと。英語で言えなかったこと。
2班							

役割 Questioner / Discussion Director : QDD Summarizer : S Connector : C Illustrator : I

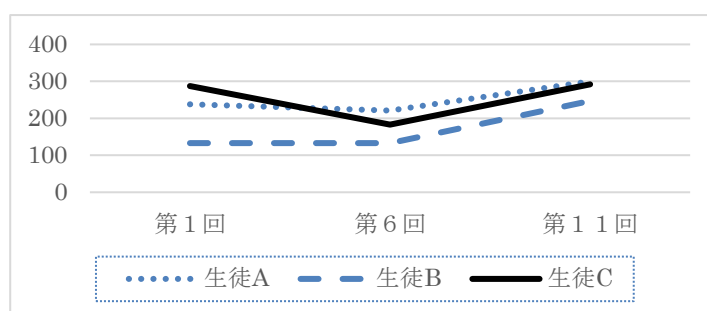
資料1 振り返りシート

イ 発話時の単語数の変化

生徒3人に焦点を当てて、15分間にどれだけの語を発話するかのカウントを行った。第1・6・11回の発話時の単語数を調べた。生徒A(英語が得意)、生徒B(英語がある程度得意)、生徒C(英語が苦手)の生徒を抽出し、3回分の変化を調べた。第1回から順番に、生徒Aは「238→221→300」、生徒Bは「133→134→247」、生徒Cは「287→183→292」であった。どの生徒も、第1

回と比べて、第 11 回の発話時の単語数は増えている。また、発話する単語は、第 1 回では、“Oh.” “Yes.” などの間投詞や副詞、名詞などの単語が中心だったが、第 11 回では、5 W 1 Hを用いた質問やその答えも英文

で答えようとしている場面が多く見られた。(資料 2)



資料 2 生徒の発話数の変化 (語/15 分)

ウ 発話内容の具体例からの分析

資料 3 は、第 7 回のリテラチャー・サークルで生徒 A～D がディスカッションをしていた場面を抜粋したものである。生徒 A は相づちやつなぎ言葉を用いたり、話題が減ってきたときに自分から話題を出したりしている。相手の意見を聞きながら、それに付け加える形で自分の考えを述べている。生徒 B は自分の考えを持っているが、文法上正しく言えない場面があった。生徒 C は I see. や単語など発話が 2～3 語で終わることが多い。また、生徒 A の言ったことを繰り返している。生徒 B と生徒 C がつまづく場面として、正しい文法で言えていなかったり、自分の考えを英語で言うための適切な単語が出てこなかったりしたように感じられる。これらの会話の内容から、より積極的に英語を話すためには、“I think ～.” などの話型を用いたり、相づちやつなぎ言葉を適切な場面・タイミングで用いたり、和英辞書を用いて継続して語彙力を高めたり、沈黙が続くようなときにする質問とそれに対する自分の考えをあらかじめ考えておくことが大切である。

生徒 B : Thank you. Today's topic is about war.
 生徒 C : About war?
 生徒 B : Why, why... why is? Why... “起こる”
 生徒 C : Start. Why start its war?
 生徒 A : You mean, why does the war happen?
 生徒 C : Yes, why does the war happen?
 生徒 B : I have an idea. People have different idea. People talk each other is good but talking is no “解決”.
 生徒 B : No solve. So, communicate important. So, bung bung. Killing each other isn't good.
 生徒 D : Communicate is very important.
 生徒 A : I think so, too. To communicate with each other is important. People talk about our future for peace. What do you think of your idea?
 生徒 B : I have a opinion. So, war causes hate. We...
 生徒 A : Share?
 生徒 B : We share hate is important.
 生徒 C : I see.
 生徒 D : I think so, too.
 生徒 A : By the way, do we think about next topic?
 生徒 B : What topic next?
 生徒 C : Talk topic deep.
 生徒 D : I see.
 生徒 A : If you are Anne Frank, what do you do?
 生徒 C : Oh, nice topic! I think I do like Anne Frank.
 生徒 B : Oh, really?
 生徒 C : But I don't like diary. And I go out. I go other country.
 生徒 B : Oh, great boy.
 生徒 C : Other country. What do you think?
 生徒 A : Oh, I... If I am Anne, I want people around the world to understand my feelings.

生徒 A・生徒 C が困っていると, “You mean～.” と言い換えをしている。

生徒 B・言いたいことは伝わるが文法上間違っていたり, 思った単語を言えなかったりしている。

生徒 A・相づちをして, 生徒 D の言った言葉を繰り返して言った後, 自分の意見をつけ加えている。その後, 別の生徒に意見を聞いている。

生徒 C・発話は多く, 言っている内容はわかるが, 思いついたままに言っている印象がある。

生徒 A・話題が少なくなったら, 自分から話題を出している。自分の考えも言うことができる。

資料 3 第 7 回リテラチャー・サークルにおける生徒 A～D の会話内容とその分析

エ 生徒全体からのアンケート結果

2021 年 3 月に該当クラスにアンケートを行った。その結果は以下のとおりである。

【リテラチャー・サークルを通して、英語を聞く力が身に付いたか。】							
とても思う	20 名	思う	12 名	あまり思わない	0 名	全く思わない	0 名
【リテラチャー・サークルを通して、英語を話す力（やり取り）が身に付いたか。】							
とても思う	23 名	思う	9 名	あまり思わない	0 名	全く思わない	0 名
【リテラチャー・サークルで、お互いに英語で話すことが楽しかったか。】							
とても思う	21 名	思う	10 名	あまり思わない	1 名	全く思わない	0 名

＜リテラチャー・サークルを行った生徒の感想（一部抜粋）＞

- ・「自分の言葉」で表現する力が身に付いた。今まで知らなかったクラスメイトの考えや経験に触れることができた。日頃聞けないような一歩踏み込んだ内容も話せたのだと思う。
- ・英語で話す楽しさをリテラチャー・サークルを通して知れたこと。最初は発言するのが嫌だったが、班の人が促してくれたことで、自分の伝えたいことを話せるようになったこと。
- ・これからの社会で他人と協力して様々な問題を解決していくためには、対話力が大切だと思います。英語で議論する活動を通して、相手と意見を伝え合うためのスキルを習得できました。
- ・確実に英語での会話力が上がりました。始めは使える単語も少なく、日本語も混ざっていたけれど、最後には英語で友達と意見を繋げられました。覚えて話すだけでなく、その場で考えて話すディスカッションの場面があったので、より英語が身に付いたと実感できました。

4 成果と課題（○成果、●課題）

○英語が得意な生徒も苦手な生徒も意欲的に学習に参加することができた。

○「自分の考えを伝えたい」「相手の考えも聞きたい」という思いを生徒から引き出せた。

●生徒が他の生徒の考えを英語で聞いた上で、自分の考えを深化させ、そのことを話題とした会話をどの生徒もできるようになること。

●ミニレッスンでは、生徒が具体的な根拠をもとに相手に反対意見を言うことができたというような良い対話例や物語の根幹の場面を時代背景や自分の推測とを合わせて述べることを褒めるなど教員のアプローチを工夫すること。

●ディスカッションでは、生徒の発言に対して教員が切り返しながらか、物語を深く読ませる視点を示したり、物語を通して学ばせたいことに気づかせたりできる授業展開とすること。

参考文献

- ・山元隆春（2013）「本を読んで語り合うリテラチャー・サークル実践入門」清水社

第3章 おわりに

教科全体として、研究テーマである「社会や世界、他者と関わる中で、自分の気持ちや考えを主体的に表現し、伝え合うことのできる生徒」の育成に向け、日々の授業実践を行ってきた。その中で、生徒が英語で話合いを行う際に場面設定を具体的にしたり、帯活動での問答ゲームや1 minute チャットを充実させたり、発表の中で自分の思いや考えを表現できる機会を設けたり、教員の英語の苦手な生徒への支援の仕方などを研究・実践したりしてきた。今後も生徒の実態を踏まえながら、生徒が英語を使いたいという意欲、自分の英語が相手に伝わったという自信を高めることができるような指導を行っていきたい。